

市民の立場からの寄稿



子供のころから環境教育

— 主婦の独り言 —

原田 真由美

はじめまして。原田真由美と申します。水素エネルギー協会誌「水素エネルギーシステム」の編集委員をしている原田の妻です。二人の娘の母として、毎日子育てに奔走しています。上の娘は小学校1年。下の娘は幼稚園と元気な盛りです。現在住んでいるところは世田谷区ですので、以前住んでいた横浜とは環境が大変違います。ゴミの収集一つとっても大きく違います。横浜では週3回の回収が週2回、横浜は分別が多かったのですが清掃局が一括回収、世田谷も分別はありますが、空き缶やビン類は回収業者が違うということでなかなか対応が大変です。生活が変わることは主婦には大きな影響を及ぼします。

ところで、上の娘も環境が変わりました。小学校1年ですが、近くの小学校からさほど遠くない別の小学校に転校しました。最近、教育問題がいろいろと取りざたされていますが、学校によりこれほど教育方針や方法が違うとはまったく知りませんでした。娘は環境が変わったことが良かったようで、学校生活を楽しんでいるようです。しかし、一つだけ変わらないことがあります。それは環境教育です。授業の内容は環境に関する教育です。世田谷区の教育取組の中に環境基本計画という項目があり、「緑と水の環境共生都市世田谷を実現するため、資源の再利用や自然環境に配慮した学校施設整備に取り組むとともに、次世代を担う児童・生徒が学校環境を通して環境問題について考えることができるような学校づくりを推進する」という題目が掲げられています。このため、世田谷区の小学校は様々な形で環境教育を実施しています。

今娘が通っている小学校の屋上には、環境教育に配慮したエリアが設けられています。太陽電池設備と風力発電システムの2つが並んで設置されていて、毎日発電をしています。この発電された電力は、学校内のメダカの水槽の電源や給食用の電源として活用されています(写真1参照)。また、特別授業として「森林破壊」「砂漠化」「オゾンホール」「酸性雨」「地球温暖化」「産業廃棄物



写真1. 屋上の風車と太陽光パネル

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kyouiku/ecolife/moriyama.html> より転載させていただきました。

「ダイオキシン」・・・等、地球環境を守るためにできることから始めましょうという教育を小学生たちに行なっています。大人が聞いてもいいような質の高い授業が行なわれていまして、子供たちも環境を意識し始めているようです。教育の効果が出てきているように思われます。21世紀に生まれた子供たちへの教育は、我々20世紀人に行なった教育とは少しばかり違うところが必要なようです。ただ、教育の場として普遍的なところも当然あります。学校の紹介のなかに次のことが掲載されています。

「環境が人を作るといわれるとおりに人間形成とは、人間が自然とのかかわりの中で自分自身を主体的にかたち作っていく過程です。地域や学校の自然環境を生かし、生活科、理科、総合的学習の時間、校外学習、野外観察、体験学習などを通して自然をいつくしむ心を養っています。学校環境は、だれでも経験するものです。学校敷地の改善により、そこをより魅力的な場所にすることがで

きるし、授業の効果をあげることもできます。また、子どもたちが、質の高い豊かな空間で過ごすことで、その土地に対する誇りや帰属意識を高めることができます。」

あたりまえのことが書かれていると思われませんが、学校の中で必ずしもできることとは思えません。感心することしきりで、恐らく学校の先生方も相当創意工夫をされていると思われます。我が娘も最近「なになぜ博士」になってきて、自然界についての質問をすることが多くなってきました。例えば、「鏡は反対に映るのはなぜ?」、「どうして夕方は空が赤くなるの?」、「りんごを置いておくとうどうして色が付くの?」などなど、子供というのは自分からいろいろなことに疑問を持つ生き物であるということが、ようやく解って来ました。こんな質問は夫に任せることにしていますが、夫も中々うまく答えることができないものもあり、親子して不思議な顔をしながら考えている光景には、思わず吹き出してしまうこともあります。

主婦の独り言のような文章ですいませんが、最後に、少しだけ心配していることを書かせてください。最近原油が1バレル100ドルを突破したとのことでマスコミは経済問題を中心に様々な報道をしていますが、石油資源の寿命は100年ないと伺っています。日本には石油資源がないため海外への依存度が高く、主婦の家計を今後も圧迫していくことは確実です。娘が生きているうちに石油資源が本当になくなってしまいう可能性も否定できないようです。水素エネルギー技術は難しい技術であることは、夫から耳にタコができるくらいよく聞いていますが、環境に配慮した再生可能エネルギーですので、是非とも水素エネルギー協会の皆様のお力で実用化をしていただきたいと思っています。

主婦の独り言にお付き合い頂きありがとうございました。また、紙面を割いていただきました編集委員会皆様に感謝申し上げますとともに、益々の水素エネルギー協会の発展をお祈りいたします。

(以下は参考させていただきましたサイトです)

<http://www.setagaya.ed.jp/mama/>

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kyouiku/ecolife/moriyama.html>

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kyouiku/ecolife/index.html>